

Vol. 149号

Colony Tokyo

# コロニーとうきょう



アートビリティギャラリー [25] 作者 戸苅 宏二さん 『ふくろう』(詳しくは15頁をご覧下さい。)

## 時評

### 2010年度 上半期総括事業報告書

とびっくす

法人の主な動きから

2011(平成23)年  
1月1日発行

コロニー 社会福祉 法人 東京コロニー

〒165-0023

東京都中野区江原町2-6-7

TEL 03-3952-6166

FAX 03-3952-6664

<http://www.tocolo.or.jp/>  
(法人本部 事務局)

# 時評

## 「60周年目の年に」

理事長 勝又 和夫  
かつまた かずお

1951（昭和26）年10月1日  
が、当法人の事業の始まりとした日であり、本年はその60周年目の年に当たります。当法人としてはこの日を起点として法人認可後に20周年、30周年、40周年、50周年と10年毎の大規模な周年記念事業を行ってきましたが、60周年については昨今のわが国の経済・財政の厳しい中では大規模な周年記念事業は控えさせていただきましたこととし、むしろ年間を通してご支援・ご協力を賜つた多くの皆様に感謝の意を日常的に表せる取り組みとすることにしました。皆様の支えがあつての60年だと先ずもつてお礼申し上げたいと存じます。

また、昨年11月28日からは評議員、理事、監事、苦情解決第三委員とも新たな方にも加わっていただき、新体制でのスタートを切っています。私が理事長職

### 1. はじめに

が、当法人の事業の始まりとした日であり、本年はその60周年目の年に当たります。当法人としてはこの日を起点として法人認可後に20周年、30周年、40周年、50周年と10年毎の大規模な周年記念事業を行ってきましたが、60周年については昨今のわが国の経済・財政の厳しい中では大規模な周年記念事業は控えさせていただきましたこととし、むしろ年間を通してご支援・ご協力を賜つた多くの皆様に感謝の意を日常的に表せる取り組みとすることにしました。皆様の支えがあつての60年だと先ずもつてお礼申し上げたいと存じます。

また、昨年11月28日からは評議員、理事、監事、苦情解決第三委員とも新たな方にも加わっていただき、新体制でのスタートを切っています。私が理事長職

を仰せつかつて10年目の年でもあります。この間では法人立する皆さんには大きな苦労をお掛けしたと思っていますが、お陰様で当初の目標を1年短縮して達成し、本年度より攻めの経営に転じて新年を迎えております。この9カ月間では東京都や区からの委託事業について、来年度及び再来年度より当法人の完全な責任において運営する見込みが固まつてきており、その他にも国、都、区市等の研究事業や単独事業等の受託も増える中で、障害者自立支援法による新体系事業への期限内での完全移行や法人の総力としての一般企業への就職支援により、この3年間に限つても120名を超える方々の就職と職場定着の支援が行えています。新体制においても、より一層法人としてのスケールメリットや東京都内20カ所以上の事業拠点を生かし、

障害のある人の「働く」、「暮す」ことを応援していきたいと考えております。

### 2. 障がい者制度 改革の動き

一昨年の政権交代によって、障害者自立支援法の廃止の明言と障がい者制度改革推進本部（総理大臣が本部長）の下の「障がい者制度改革推進会議」や「総合福祉部会」などの精力的な活動によって、本年1月下旬の通常国会では障害者基本法改正案の審議や本年中の同会議にて、総合福祉法等が来年の通常国会に上程されるとの声も聞かれるようになつています。

当法人としては、国の制度がどのような方向になろうとも初代理事長の野村実先生の「当事者が望むならば敢えて法律を超えてでも、その願いに応える」とする気概をもつて、法そのものはいずれの法であつたとしても

尊重しつつも、障害のある人たちのニーズを第一に事業運営を行うべきと考えており、障害者制度改革を待つのではなく、そのことには関わりつつもその先に目標を置いて法人運営に当たる覚悟でいます。

### 3. 法人の現在と今後

本年度の中間決算では多くの皆様のご支援により、厳しい経済情勢の中でも前年同期の剩余金計上と運営面においても一般就職者数の増等、別稿でご報告する事業結果となっております。特に当法人の現状において前年度との大きな違いは昨年度までの事業運営が事業所または事業本部単位に重きが置かれていたことに比べ、法人全体としてより一的な運営に比重が移つてきています。いくつかの事例では、①防災・安全用品販売事業の他部門への拡大、②LE

D 照明の導入やコンピューターシステムの新規統合への取組み、新規事業のPT発足等の決定など矢継ぎ早に新たな社会環境に向けた動きを加速させています。

前年末から本格的に取り組み始めた国立の最も有名な大学との

障害者雇用での連携は本年3月までにはさらに深化を予定して

おり、この連携をさらに発展させるために社会福祉法人と大学

が連携することで民間企業への

参加のアプローチの機会になればと先進的に取組むことを予定

しています。また、この2年間に亘って社団法人東京都共同住

宅協会様主催の「福祉住宅（障がい者施設）等の安定供給に關する実務研究会」に参加してき

ましたが、この2年間の研究結

果を実際の成果とする年を迎えています。研究会には厚生労働省、東京都、身体・知的・精神障害者関係者、設計技師等も参

加し、民間の賃貸住宅をいかに障害のある人たちの生活の場と

できるかを研究してきたものであります。昨年には3回に亘つて東京都議会の会議室をお借りし、家主を主な対象とするセミナーも開催しており、いずれの回も満員盛況な状況でした。当法人にとっては「働く場の提供」だけではなく、そのための「安定した暮らしの場」の必要を痛感しております。公営住宅に関しては政府も積極的な取り組みを行つていますが、民間住宅については

家主さんの理解を得ることの重要性を認識しての参加であり、東京におけるモデルづくりとその

ことの全国展開を国会議員の先生のお力もお借りし、成果を上げていきたいと考えております。

いざれにしても多くの仲間が核となり、その核の周りに輪ができるはずですので、改めて核となる皆様の力の結集をお願いするとともに、当法人の今後に向けての関係者の皆様のご支援・

ご理解を切にお願いし、年頭のあいさつとさせていただきます。

すべての人の幸多き一年を切に願っております。

### 4. 多くの仲間と共に

新年であることもあってやや筆が走り過ぎていいかもしませんが、当法人の歴史的な言葉でもある「人間回復の砦」として



の当事者主体・企業性・民間性の下に当法人に籍を置く人たちだけではなく、アートビリティ事業やエスチームに登録いただいている方、さらには東京都障害者IT地域支援センターや東村山市就労支援室をご利用いただいている方など千数百人の皆様と共に、この60周年の年にそこの後の5年、10年、20年の確かな道筋をつけたいと考えています。

# 2010年度 上半期総括事業報告書

## 1. はじめに

2006年4月に施行された「障害者自立支援法」は2013年8月までには廃止されることが明言されており、それに代わる新たな制度の検討が急ピッチでなされています。この法によつて、利用者、家族、事業者共に利用者負担の増や事業者の公費減など苦しい状態に置かれていることについて、法の廃止や新法の骨格を見極めることは重要ではあります。

は増す状況の中にはあります。本年度の法人経営においても一層の努力が求められていましたが、このような中でも事業の一層の多角化等によりその影響を受けない努力を図りつつあります。また、上半期末での在籍者数は前年末より9名増の664名であり、その他に9月末での登録・契約者を加えると1200名を超える人たちを対象とする事業状況です。

## 2. 2010年度の運営方針

### の進捗状況

(3) 旧体系のままとなつてゐる施設（福祉工場、精神障害者通所授産施設）については、関係者等との協議を本格化させ、当法人としての方向性を定めるとともに、本年度中に題とした上で諸制度に則した運営を行いつつ、障害のある人たちの立場に立った経営に引き続き努力しました。

(1) 経済状況の厳しさが予測された中でも、既存の顧客の満足度を高める努力や新規事業導入等により受注額の減少を可能に限り食い止めるよう努力しています。

(2) 障害者自立支援法に基づく新体事業について、定員等の見直しを行うなど利用者のニーズを第一に、可能な限り受入増を図るために運営に努めています。また、次年度に向けて生産型生活介護事業の開始について検討に入りました。

## 3. 各事業の状況

(3) 旧体系のままとなつてゐる施設（福祉工場、精神障害者通所授産施設）については、関係者等との協議を本格化させ、当法人としての方向性を定めるとともに、本年度中に題とした上で諸制度に則した運営を行いつつ、障害のある人たちの立場に立った経営に引き続き努力しました。

(1) 法人本部 専務・常務理事のかかわりを強めるとともに事務局体制と常務会（事業本部長会）を中心とする機能の強化からの事業受託等について

は引き続き真摯に取組んでいます。

(4) 法人立事業の借入金圧縮に引き続き努力し、経営基盤の安定に一定の目処をつけました。

(5) 近い将来を視野に若手や基幹要員の育成に努めるために、その具体策の検討に入っています。

化に努めています。

(2) 福祉事業本部 各事業の利用者合計が30名以上であるため、各事業毎に責任を持たたれ運営ができるように従業員の役割認識を高め、各寮等の運営の安定化を図りつつあります。なお、ヘルパー派遣の利用契約者は43名となっています。

(3) IT事業本部 次世代を担う人材育成に力を入れるとともに、都や市からの受託事業の継続と本年度としては各事業での赤字を出さない経営維持を図れる見込みです。なお、上半期のSOHOチームの登録者は13名、職業紹介での登録者は35名、IT支援センターでの受講自治体は45区市であり、510件の相談と450名の来場者があります。

- ・ コロニー中野 新規事業の取り組みを含め地元自治体・事業者との関係強化により経営体质の強化を図りつつあります。
- ・ 中野区精神障害者社会復帰センター 当法人が受託した意味を明確に示せるよう新体系での指定管理者となるべく応募手続中です。
- ・ コロニー東村山 印刷事業の

の定員倍増等の見直しに加え、生産型生活介護事業の開始の検討に入りました。また、精神障害者通所授産施設についての在り方では区受託事業は新体系での指定管理者となるべく応募手続き中であり、独自施設については来年度下半期から新体系への移行を図るべく検討に入っています。

4つの事業のトータルとして4名のトライアル雇用中の者や施設利用と一般就労との組合せで所属するものが2名お

り、就労継続A(雇用)型へは6名が上半期中に移行しました。

青葉ワークセンター 第三

ワークセンターの新体系移行について検討すると共に、新規事業の取り込みについて検討・実施しつつあります。

(5) 福祉工場事業本部 東京都との民間化問題に関する協議等

の民間化問題に関する協議等を本格化させると共に、事業的には必要な対応を図りつつあります。

葛飾福祉工場 売上の減少を最少限にとどめると共に、赤字部門の経営改善に取り組み、併せて障害者雇用への努力と配置についての工夫を行

業界が益々厳しい状況となりつつある中で、法人内での協力関係の強化も視野に大胆な工夫などにより、可能な限り

率化等に鋭意努力すると共に、5月には城南島工場への

移転を図り、民間化に向けての経営の在り方の検討を開始しています。

#### 4. その他

法人全体として以上の事業の他、「障害者自立支援法の評価で3781点の作品の登録となっています。また、アートビリティでは389名の作家の4名のトライアル雇用中の者や施設利用と一般就労との組合せで所属するものが2名おり、就労継続A(雇用)型へは6名が上半期中に移行しました。

青葉ワークセンター 第三ワークセンターの新体系移行について検討すると共に、新規事業の取り込みについて検討・実施しつつあります。

(5) 福祉工場事業本部 東京都との民間化問題に関する協議等を本格化させると共に、事業的には必要な対応を図りつつあります。

葛飾福祉工場 売上の減少を最少限にとどめると共に、赤字部門の経営改善に取り組み、併せて障害者雇用への努力と配置についての工夫を行

ます。

・ 大田福祉工場 受注活動や効率化等に鋭意努力すると共に、5月には城南島工場への移転を図り、民間化に向けての経営の在り方の検討を開始しています。

うことで努力中です。

**表 1. 在籍者の推移**

自 2010 年 4 月 1 日 至 2010 年 9 月 30 日

(単位：人)

	前年度末 在籍者数	期中増減				上半期末 在籍者数
		増員		減員		
雇用就労者	107 (9)	8 (6)	(6)	8 (0)	(0)	107 (15)
事業・施設の利用者	230	22	(3)	15	(9)	237
その他	41	6	(0)	5	(0)	42
障害がある就労者等 ( 計 )	378 (9)	36 (6)	(9) (6)	28 (0)	(9) (0)	386 (15)
障害がない就労者	277	12	(2)	11	(2)	278
合計	655 (9)	48 (6)	(11) (6)	39 (0)	(11) (0)	664 (15)

(注) 1) A型利用者については、障害がある雇用就労者に含めた上で下段の( )で再掲しています。

2) 年度末在籍者数には非常勤嘱託医を含んでいます。

3) 年度末在籍者数にはグループホーム・ケアホーム利用者を含んでいます。

4) 増減実数の( )内人数は法人内異動者です。

**参考資料：「在籍者の推移」に含まれない人員状況**

上半期末及び上半期中人数

(単位：人)

	登録・契約障害者	一般就職者等	トライアル雇用者等	一般就職サポート者
福祉事業本部	43	—	—	—
IT事業本部	48	*1 9	—	—
社会就労事業本部	—	*2 9	6	—
東村山市就労支援室	86	8	—	—
アートビリティ	389	—	—	—
計	566	26	6	*3 121

\*1 IT事業本部、職能開発室 在宅雇用 4人、職業紹介 5人

\*2 社会就労事業本部、コロニー中野しごと財団修了者で一般雇用 3人、A型雇用 6人

\*3 事業本部、事業所を超えて全体でサポート（当法人からの 2007.4～2010.9までの一般就職者）

**上半期末貸借対照表（簡易版）**

2010 (平成 22 年) 9 月 30 日現在

(単位：円)

	前年度決算	本年度中間決算	増減		前年度決算	本年度中間決算	増減
現金預金	2,856,935,066	2,677,672,321	△ 179,262,745	買掛債務	1,032,414,272	635,105,134	△ 397,309,138
売掛債権	1,281,217,375	1,012,967,411	△ 268,249,964	借入金	1,029,983,000	1,012,767,000	△ 17,216,000
その他	3,352,361,684	3,361,485,612	9,123,928	その他	1,415,760,145	1,362,524,359	△ 53,235,786
				純資産	4,012,336,708 * (71.2%)	4,041,728,851 * (66.3%)	29,392,143
合計	7,490,514,125	7,052,125,344	△ 438,388,781	合計	7,490,494,125	7,052,125,344	△ 438,368,781

\* 純資産に占める現金預金の比率

# と ひ な く す

## TOPICS



発売のきっかけは毎年行われている中野の逸品グランプリで、今年「生フルーツゼリー」で最優秀逸品賞を受賞された鷺宮のフルーツパーラー「サンフルール」のシェフ平野泰三さんとの出会いです。平野さんは世界のカリスマフルーツカッター賞の称号を持つフルーツカッティング界の第一人者でもあります。

また、平野さんは障害者福祉にも熱心で障害者の自立支援に貢献したいと考

えています。

井上所長との話し合いで「生フルーツゼリー」のレシピを提供し、技術指導も無償で行っていただけることになりました。そして、5月下旬に第一回目の講習が行われ、フルーツのカットの仕方、材料の配分、保存方法等細かくご指導いただきました。さらに、ポスター等も貸して

工賃アップに少しでもつながればという思いがあつたそうです。また、ご自分のお店の味を他の地域の方々にも提供したいとも思っていたそうです。

そんな時、中野区逸品グランプリの担当でもある中野区産業振興課の職員から『ころ・ころ』を紹介されたそうです。

お客様の評判も上々で「とてもおいしい」という声をたくさんいただいています。お客様によつてはお一人で数多くお買い求めになる方もいらっしゃいます。また、「あのゼリーがここで買えるようになつてうれしい」と言つてくださるお客様もいます。今、『ころ・ころ』では週に二回、火曜日と木曜日にこのゼリーを作っています。今はまだ慣れてないせいもあって二名が専属で作っていますが、これからは何らかの形でもつと多くの利用者の皆さんのが関われるようになります。そして、将来的には区役所での販売も考えております。先日もご自分のお店が休みの日にわざわざ来てくださり、秋から冬にかけておいしくなる洋梨や柿、いちご等のカットの仕方を教えていただきました。

ホットドッグの店『ころ・ころ』では5月下旬より「生フルーツゼリー」の販売を開始しました。発売以来お客様に大変な人気で、多い時には一日30個近く売れることもあり今では当店のNo.1スイーツになっています。

発売のきっかけは毎年行われている中野の逸品グランプリで、今年「生フルーツゼリー」で最優秀逸品賞を受賞された鷺宮のフルーツパーラー「サンフルール」のシェフ平野泰三さんとの出会いです。平野さんは世界のカリスマフルーツカッター賞の称号を持つフルーツカッティング界の第一人者でもあります。

このゼリーは生のフルーツをそのままゼリーにしたものでフルーツその物の味を活かすためゼリー 자체にはあまり味はありません。フルーツ本来の甘み、酸味を味わっていただけして、そこで働く障害者の職域の拡大、販売による収益増加で障害者の工賃アップに少しでもつながればという思いがあつたそうです。また、ご自分のお店の味を他の地域の方々にも提供したいとも思っていたそうです。



みなさんもぜひ一度「生フルーツ

### コロニー中野

#### 「生フルーツゼリー」の販売

たそうで  
す。  
中野の逸

品グランプ  
リを受賞し  
たことに  
よつてこの

ゼリーを障  
害者施設で  
作り、販売  
できなかだ  
ろうか。そ

して、そこで働く障害者の職域の拡  
大、販売による収益増加で障害者の  
工賃アップに少しでもつながればと  
いう思いがあつたそうです。また、  
ご自分のお店の味を他の地域の方々  
にも提供したいとも思っていたそ  
うです。

お客様の評判も上々で「とてもおい  
いしい」という声をたくさんいただ  
いています。お客様によつてはお一  
人で数多くお買い求めになる方もい  
らっしゃいます。また、「あのゼリー  
がここで買えるようになつてうれし  
い」と言つてくださるお客様もいま  
す。今、『ころ・ころ』では週に二回、  
火曜日と木曜日にこのゼリーを作つ  
ています。今はまだ慣れてないせい  
もあって二名が専属で作つています  
が、これからは何らかの形でもつと  
多くの利用者の皆さんのが関われるよ  
うにしたいと思つています。そして、  
将来的には区役所での販売も考えて  
います。

ゼリー」を味わってみてください。

ホットドッグの店『ころ・ころ』

堀越 和夫

## スマイル

### 「有意義な一日」

11月10日、今の季節にしては暑いぐらいの陽気の中、中野区内の作業所交流会が行われました。8月から各作業所のメンバー・職員が協力して準備を行いやつと迎えた本番。担当として当日朝からずっと緊張していました。

開会式ではスマイルの担当メンバーが開会の言葉を述べ、午前の部・ソフトバレーボールが始まりました。「皆さんより練習に参加しながらたからなあ」という不安は裏切れました。勿論良い意味で。実習生も交えたチームで、皆で協力し合い着実に点数を入れていく姿には、涙すら出そうになりました。交代要員の不足で試合に出ずっぱりのメンバー達は、辛そうな表情を見せながらも最後まで本当に一生懸命戦つていました。試合に出られないメンバーは応援したり得点係として参加し、皆が頑張っていました。結果こ



そ3位だったものの、大げさではない言葉では言い表せない程の感動をもらいました。1時間の昼休み中には、他作業所メンバーとの間でソフトバレーボールに関する様々な感想が飛び交っていました。皆思ひ思ひのことを口にしていましたが、この年に1度の交流会を楽しみにしていました。共通の気持ちはものすごく伝わってきました。

午後からは3種類のレクリエーションを行いました。1つ目のソフトボールは午前と同じく作業所

最初は右も左も解らず打ち合わせに参加し、内心「交流会なんて意味あるのかなあ」とさえ思っていましたが、少なくとも自分にとっては非常に楽しく有意義な1日でした。一緒に参加した総勢105名、特にスマイルのメンバー達もそう思ってくれていることを切に願います。

**中野区精神障害者社会復帰センター**

木下 結貴

## コロニー東村山 ～今年のコロニー祭～



て、お客様を迎える：実行委員会や部課長会の場で、実行委員長の口からこれらの話が出ると、ことが進み始める。芸能事務所にも問い合わせてみました。しかし、日程やギヤラの都合で実現はしませんでした。おそろいのTシャツは所長も即OKを出し、実行。どんなものか？

祭り当日のみんなの姿を見ていただければおわかりのとおり。4色のTシャツに同じデザインでお客

## 新しい風

今年のコロニー祭はいつもとは違うものにしよう。新しい風を吹き込ませたい。黒木実行委員長の頭の中では6月から構想を練っていました。30回目の記念で節目ということもあり、今までのコロニー祭とは何かを変えたい気持ちは私も同じ気持ちでした。芸能人を呼んで、盛り上げたい：おそらくいたです。ドリブルリ

様をもてなすことができました。

毎年恒例のナイスハートバザールにも多くの施設に参加していただき、にぎわいました。猛暑が続く9月の開催に合わせ、売り物を変更していただきたところもあり、飲食売り場は完売状態のところも多かったです。今年は葛飾工場からの防災用品の寄付もあり、模擬店を取り扱わせていただきました。模擬店にも新しい風が吹いていました。

舞台では、車椅子の方の司会でオープニングセレモニーを行い、コロニー関係者によるバンド演奏やライブ活動も行っているブラウンコンストの演奏、コロニー羞恥心を歌つて踊ってくれた若い利用者の3人組、民謡の披露もありました。お客様の拍手をもらいたいへん盛り上がりました。身体障害者の施設として始まつたコロニー東村山。現在では障害種別によらないサービスを提供し、知的障害者の利用者が多くなつてきていますが、これも新しい風です。舞台での様子を見て、コロニー東村山の歴史を振り返りつつ新しい風を感じた方も多かったと思います。

猛暑の中、来場していただいたお客様の数も昨年の倍、模擬店の売り上げも上々?大盛況で後夜祭を迎えて暑い熱い1日を終えました。来年はどんな風が吹くのだろう?。

**コロニー東村山**  
岩崎洋子

2007年からスタートした就労移行支援事業ですが、初年度4名、2年目も4名の方が就職を果たし、15名定員の事業で就職率53%という成果を挙げる事が出来ました。しかし、事業開始3年度目の2009年度は就職者1名というように就職実績にかけりが見え始めています。その為、従来の就労支援に加えて更なる工夫が必要となつてきており、その取り組みとして、支援課（旧総務課）に就労移行支援を専門に担当する「就労移行支援係」が設置されました。その事によつて、今までは作業活動の合間に縫つて就職に向けた訓練が行われてきましたが、これからは作業活動にとらわれず、必要な時に必要な内容の支援を実施できる体制が整えられたと言えます。

え、コロニー東村山一同、乾杯をして暑い熱い1日を終えました。来年はどんな風が吹くのだろう?。

**コロニー東村山**  
岩崎洋子

## 青葉ワーカンセンター

### 就労支援係の新設

2007年からスタートした就労移行支援事業ですが、初年度4名、2年目も4名の方が就職を果たし、15名定員の事業で就職率53%という成果を挙げる事が出来ました。しかし、事業開始3年度目の2009年度は就職者1名というように就職実績にかけりが見え始めています。その為、従来の就労支援に加えて更なる工夫が必要となつてきており、その取り組みとして、支援課（旧総務課）に就労移行支援を専門に担当する「就労移行支援係」が設置されました。その事によつて、今までは作業活動の合間に縫つて就職に向けた訓練が行われてきましたが、これからは作業活動にとらわれず、必要な時に必要な内容の支援を実施できる体制が整えられたと言えます。

### 青葉ワーカンセンター

#### 支援課支援係係長 島田 豊

さて、就労移行支援係が発足して1ヵ月あまりが経ちました。就労移行支援は基本2年間という利用期限があり、利用者の方々はその残された期間の中で一般就労に結びつくよう日々努力を続けています。その為、支援部署が変わることによる時間のロスがあつてはならないので、支援の継続性を重視して取り組み、面接練習や実習同行など必要な支援を行つております。ただ、それだけで新しく就労移行支援係が設置された意味がないので、今後はそれぞれの方の特性や新たな可能性に着目した就労支援を組み立て、実施していく様、取り組んでいきたいと思つております。

さて、就労移行支援係が発足して1ヵ月あまりが経ちました。就労移行支援は基本2年間という利用期限があり、利用者の方々はその残された期間の中で一般就労に結びつくよう日々努力を続けています。その為、支援部署が変わることによる時間のロスがあつてはならないので、支援の継続性を重視して取り組み、面接練習や実習同行など必要な支援を行つております。ただ、それだけで新しく就労移行支援係が設置された意味がないので、今後はそれぞれの方の特性や新たな可能性に着目した就労支援を組み立て、実施していく様、取り組んでいきたいと思つております。

さて、就労移行支援係が発足して1ヵ月あまりが経ちました。就労移行支援は基本2年間という利用期限があり、利用者の方々はその残された期間の中で一般就労に結びつくよう日々努力を続けています。その為、支援部署が変わることによる時間のロスがあつてはならないので、支援の継続性を重視して取り組み、面接練習や実習同行など必要な支援を行つております。ただ、それだけで新しく就労移行支援係が設置された意味がないので、今後はそれぞれの方の特性や新たな可能性に着目した就労支援を組み立て、実施していく様、取り組んでいきたいと思つております。

さて、就労移行支援係が発足して1ヵ月あまりが経ちました。就労移行支援は基本2年間という利用期限があり、利用者の方々はその残された期間の中で一般就労に結びつくよう日々努力を続けています。その為、支援部署が変わることによる時間のロスがあつてはならないので、支援の継続性を重視して取り組み、面接練習や実習同行など必要な支援を行つております。ただ、それだけで新しく就労移行支援係が設置された意味がないので、今後はそれぞれの方の特性や新たな可能性に着目した就労支援を組み立て、実施していく様、取り組んでいきたいと思つております。

の方々です。

今年2月に当プロジェクトの先

生方から求人のご相談を受け、3

月に面接、4月に打ちあわせを実

施。続く3ヵ月の準備期間に、在宅

メンバーはプロジェクトのWEBリ

ニューアルを見事に仕上げました。

大まかなイメージづくりから実際の

スタッフおよび私ども教育スタッフ

も必要に応じて参画し、オンライン

で進められました。その間に、よい

形でコミュニケーションも醸成さ

れ、8月には在宅雇用が正式に決定。

猛暑も吹つ飛び嬉しいニュースとな

りました。

### 青葉ワーカンセンター

#### 東京大学READ研究室に、 在宅雇用で3名就職へ

#### この夏、職能開発室の技術者講習

で学んだ修了生を中心に、3名が東京大学READプロジェクトに在宅勤務で就職を果たしました。皆さん障害者手帳でいうところの1種1級

「経済学」と「障害」の組み合わせは、一昔前だとピンと来ない方もあるでしょう。ですが、昨今の「医学モデルから社会モデルへ」という

障害概念の転換を考えれば、障害のある人の状況を、従来の医療やリハビリテーションといった枠でなく、ビリテーションといった枠でなく、

**READ** 総合社会科学としての社会・経済における障害の研究  
Research on Economy And Disability

学術創成 総合社会科学としての社会・経済における障害の研究  
READは障害学と経済学の対話をとおして、障害を社会科学の立場から総合的に研究する新分野の開拓をめざす学術的な研究プロジェクトです。

最新情報 2010年11月11日  
最終更新日: 2010年11月11日

10月20日 READ公開講座「セミナー」  
お知らせ

10月20日 開催 READ公開講座「イギリスの障害学」その実態と課題  
公開講座

ADA「障害をもつアメリカ人法」より開発されたアメリカにて  
エッセイ

7月3日 「総合社会科学としての社会・経済における障害の研究」研究会  
定期評議会

お知らせ 2010年11月9日

ホーム  
プロジェクトの紹介  
代表者挨拶  
プロジェクトの概要  
メンバープロフィール  
プロジェクトの活動  
定期研究会  
公開講座・シンポジウム  
東大フォーラム 2009

<http://www2.e-u-tokyo.ac.jp/~read/jp/index.html>

社会や経済の中の現象として見つめるることは、福祉の現場の人間としても妥当なことと思えます。社会活動を阻む真の要因を多方向で捉えなおすREADの研究情報は、在宅勤務者が作っている下記のサイトで、ぜひご覧下さい。

(注1) 松井彰彦氏  
現在 朝日新聞の「論壇時評」の論壇委員を担当中。

職能開発室所長 堀込真理子

## 葛飾福祉工場 アジア2か国からの視察団が 福祉工場を訪問

現在、葛飾福祉工場は、大田福祉工場と共に2012年4月1日からの、東京都の民間化と新事業体系への移行に向けて、各種準備を進めています。葛飾では、すでに移行を終えた法人内の事業所や、東京コロニーも加盟する社団法人ゼンコロの会員法人である青森コロニー・長野コロニーの事業所にも足を延ばし、現場での問題や課題について、多くの示唆をいただいています。

こうした葛飾福祉工場ですが、最近はとみに視察の問い合わせが多く、アジアからの訪問が相次いでいます。昨年の9月17日(金)の午後3時からは、中国から北京市總工会訪日団12名が、また9月30日(木)の午後2時半からは韓国の障害者福祉施設関係者15名が当工場を訪問しています。それ以外に国内の視察も数多くあります。

北京市總工会は、企業に勤める方々で組織された団体で、主に障害者の労働施策という面からの視察でした。また、韓国は、主に国内8市

の障害者福祉の担当者で組織された視察団で、いずれも、インターネット等で福祉工場という制度に関心を持たれ、他の障害者施設に比較して、一定の収益と共に高い賃金水準の実態や健康保険、厚生年金、労働災害保険の各種社会保険の適用の有無、また健康管理や生活相談への配慮など、細部に渡るものでした。各視察団とも約1時間の概要説明後に、町工場の縫製現場を視察し、現場担当者も質問攻めに遭うというほど、熱心な視察ぶりでした。

一方、視察では、我が国の障害者施策の現行法である障害者自立支援法は廃止が明言されていること、それに代わる総合福祉法制定に向けての論議が急ピッチであることを付言し、現行法は2012年3月までは法として生きているため、その過程中での移行作業であることを話し、現行水準を維持するための従業員の理解と協力が不可欠なこと、さらに地域の障害者就労への貢献も最大の課題として、率直な意見交換を行います。視察者からは「今回学んだ障害者就労支援のシステムをぜひ国に持ち帰り、参考にしたいと思う。移行後の新生福祉工場も見てみたい」とのエールが送られました。

掲載の写真は、北京市の視察団からの礼状と共に届いた写真のひとコマです。

## 大田福祉工場 自家製品第一号の販売開始!

東京都葛飾福祉工場  
所長 君島 久康



大田福祉工場は、お客様からの受注印刷物の製造が中心ですが、このたび初めて自家製品の製造・販売にチャレンジしました。

福祉工場は、2012年度の制度



移行・民間化を控え、いかにして増収を図るかが大きな課題です。

行く行く

は異なる分野へのチャレンジも視野に入れなければな

りませんが、研究開発や設備投資に投じる資金がない中で、まずは印刷事業に軸足をおいて、『今持つている設備と人材とノウハウで出来るこ

と』からやつてみようというわけで、取組み始めたのが自家製品の製造で

## 福祉事業本部

東京都大田福祉工場  
所長 磯貝 和子

### グルーブホームでの 自衛消防訓練

詳しく述べ、ぜひホームページをご覧ください。ご自分用だけでなく、若い方は、ご両親などへのプレゼントにいかがでしょうか！

さて、前向きにチャレンジした「銘日録」、売れ行きは未知数で、費用を回収できるか不安もあります。

しかし、一方で知恵を出し合って

作る醍醐味や、一冊でも心底「ありがとうございます！」と言える喜びも味わっています。なによりも、お客様に物を買って頂くためにどんな配慮が必要かを考え、「販売」とは、「商売」とはどんなものかを実体験できていることは、大きな財産です。

福祉工場は就労継続支援A型事業へ移行していくことになりますが、A型であろうと福祉工場であろうと、また民間会社であろうと、仕事を請け、また製品を作つてお金を頂く以上、その責任と目指すべき品質にかわりはなく、商売の基本は同じです。

自家製品の製造販売を機会にもう一度この大原則を肝に銘じて、事業に取組んで行きたいと思います。

グルーブホームは地域でのふつうの暮らしを目指すものです。避難訓練については、以前は『もしも火事が起こつたら…?』と話し合つたり、いざという時の避難出口や地域の避難場所を確認したりという取組みでしたが、施設と同じように自衛消防訓練も消防署立ち会いのもとに行う機会も出てきました。

中野区江原町にあるグルーブホーム「えはらハイツ」でも、昨年8月に消防署立会いの自衛消防訓練を行いました。当日は消防車と共に野方消防署の方が5名も見え、当方は昼間の時間帯のため入居者の方はたまたま休んでいた2名のみ、従業員も集まれたのは5名でした。でも、消防署の職員の方は、「こんなにたくさん集まっていた大変だ」とおっしゃっていました。

ここ数年、各地の高齢・障害のグループホーム・ケアホームの火災が報じられ、障害福祉サービスのグループホーム・ケアホーム（以下、

グルーブホームという）についても消防法の適用が厳しくなり、各市区町村の消防署による査察が行われるようになっています。

当法人の各グルーブホームの防火設備としては、スプリンクラーは設置基準外ですが、えらハイツは自動火災報知機が、東久留米第一、第二、第三氷川台寮や国分寺戸倉寮はセコムの火災監視サービスが入っています。

グルーブホーム名を必ず言う、「各部屋は確認後扉を閉めていく」他何点か注意をいただきました。また、9月には入居者の皆さんが帰寮した夕方の時間帯で自衛消防訓練を実施しました。東久留米や国分寺のグルーブホームでも同様な訓練を行っています。

新年にあたり、火事は絶対に起こしてはいけないという思いを新たに、今年も各グルーブホームで日頃の話し合いと自衛消防訓練を実施していくたいと思います。

福祉事業本部長 加藤留美子



# 法人の主な動きから

## 評議員・理事・監事・第三者委員の選任

2010年11月27日に開催された第六十回評議員会及び第232回（10月27日開催）・233回（11月28日開催）理事会において、2010年11月28日から二年間の任期で、新たな評議員・理事・監事・第三者委員が選任されました。

引き続き東京コロニーの事業に対するご理解と暖かいご支援をお願い申し上げます。

※ 今期をもちまして、比留間ちづ子評議員兼第三者委員、松井保彦評議員、三友敬太評議員兼第三者委員におかれましては任期満了につき、退任されました。永きに亘り、ありがとうございました。  
 (事務局)

理事・評議員	勝又 和夫	評 議 員	朝日 雅也(新任)	(県立大学教授)
理事・評議員	高山 真三	(元東京都議会議員)	評 議 員	小玉 剛(新任) (歯科医師・介護保険審査委員会委員)
理事・評議員	木村 良二	(大手電気グループ会社 統括コーディネーター)	評 議 員	中川 理(新任) (福祉保育専門学校 講師)
理事・評議員	武者 明彦	(社会就労事業本部長)		
理事・評議員	鬼頭 克介	(IT事業本部長)	監 事	矢倉 久泰(新任) (元大手新聞社 論説委員)
理事・評議員	君島 久康	(福祉工場事業本部長)		
評 議 員	岸本 美恵子	(足立区肢体不自由児者 父母の会顧問)	監 事	加藤 一志 (公認会計士)
評 議 員	山根 伸右	(弁護士)	苦情解決	
評 議 員	柿沼 一彦	(元東村山市社会福祉協議 会事務局長)	第三者委員	朝日 雅也
評 議 員	外川 勝久	(利用者家族代表・開発 設計コンサル会社理事)	苦情解決	
評 議 員	秋田 実	(大手商社環境・CSR推進 室長)	第三者委員	矢倉 久泰(新任)
評 議 員	仮屋 暢聰	(医師)	苦情解決	
評 議 員	中村 敏彦	(社会就労事業本部 副本部長)	第三者委員	中川 理(新任)
			理 事 長	勝又 和夫
			専 務 理 事	君島 久康
			常 務 理 事	武者 明彦
				(敬称略)

## 「第22回アートビリティ 大賞式典」が開催されま した



ご出席者へお配りしていた手作り名刺が大好評!  
アートビリティ大賞受賞の岡村陸矢さん。



アサヒビール奨励賞の表彰で、表彰状を受け取る戸苅宏二さん。

アートビリティ大賞 (副賞金10万円)	岡村 陸矢さん
アサヒビール奨励賞 (副賞100枚のポストカード)	戸苅 宏二さん
日立キャピタル特別賞 (副賞100枚のポストカード)	大隅 敏雄さん

あらためて、受賞作家の皆さん、  
おめでとうございます!

アートビリティ事務局  
岡嶋 明美

アートビリティでは、企業・団体・労働組合及び関係者の皆様のご協力で、年に一度、その年に一番活躍されたアーティストを表彰しています。

アートビリティでは、企業・団体・労働組合及び関係者の皆様のご協力で、年に一度、その年に一番活躍されたアーティストを表彰しています。アサヒビール株式会社様のご協賛によつて、独自の路線を歩み、アートビリティや障害者アートへの貢献度の高かった作家に贈られる「日立キャピタル特別賞」、そして、その年に最も活躍をされ、アートビ

アサヒビール株式会社様のご協賛によつて、将来が嘱望される新進気鋭のアーティストに贈られる「アサヒビール奨励賞」、日立キャピタル株式会社様のご協賛によつて、独自の路線を歩み、アートビリティや障害者アートへの貢献度の高かった作家に贈られる「日立キャピタル特別賞」、そして、その年に最も活躍をされ、アートビ

アートビリティの顔となるべき作家に贈られる「アートビリティ大賞」の各賞受賞三名の作家が、アートビリティ大賞選考委員会において厳正に選定されます。

今年度の受賞作家を表彰する「第22回アートビリティ大賞式典」は、11月12日（金）、日本財團ビル1階フロアにて開催され、日頃お世話になっているユーザーの

アートビリティ大賞および各賞受賞作家の表彰式の後は、ご出席いただいたユーザー様と作家の交流をかねた立食パーティを開催し、年に一度のこの機会を皆さんに楽しんでいただきました。

各賞受賞作家の皆さんには、次の一とおりです。

皆様を初め、作家や応援団など関係の方々が大勢お祝いに駆けつけてくれました。

## 「障害者ワークフェア 2010」に出展、大盛況！



昨年10月15日（金）・16日（土）の二日間にわたり、「障害者ワークフェア2010」（会場・横浜アリーナ、主催・独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構ほか）が開催され、就労支援機関や企業など約150団体が出展し、障害のある

人やそのご家族など多くの方が集まりました。東京コロニーのブース出展は今回で4年連続。他の出展者の中にも馴染みの顔ぶれがちらほらと見られます。そんな中で、「学ぶ」から「働く」まで一貫して在宅就労支援の先駆的役割を担ってきた機関とめ、他の出展者との意見交換や情報収集に努めました。あらかじめ私たちの出展を知ったうえで訪ねてきた方も例年以上に多く、「在宅就労」といえば東京コロニーというパイオニアの知名度も定着してきた感がありました。

今回のワークフェアは、例年以上の来場者数を記録したといえます。会場の利便性もありますが、この分野にかかる人たちや関心のある人たちの総数が拡大したことの表れであるともいえます。当ブースにおいて



### 個人情報の取り扱いについて

本誌における個人情報は、当法人の「個人情報保護方針」に基づいて取り扱います。（個人情報の保護に関する方針は東京コロニーのホームページでご覧いただけます）。

職能開発室 吉田岳史

にも一層のニーズが高まることを実感しました。実は注視すべきことがもうひとつ。会場では、「第32回全国障害者技能競技大会（アビリティック）」が同時開催されていましたが、この大会には毎年、職能開発室の教育事業の現役受講生や修了生などが競技に参加し、好成績をおさめているのです。彼らの積極的な姿勢や、応援しているご家族、職場の同僚などの姿を目にし、今回もまた多くの活力をもった気持ちになりましたながら、あつという間の2日間を終え、会場を後にしました。

# アートビリティ Artbility ギャラリー 25

## 『ふくろう』 戸苅 宏二 さん

今回は、戸苅宏二さんをご紹介します。

戸苅さんは、アートビリティが協力をする障害のある子どものアートコンクール「キラキラっとアートコンクール」で、第1回から6回まですべて優秀賞を受賞し、その後、アートビリティ審査会を経て2009年11月に登録作家となりました。

そして、今年度のアートビリティ大賞では、新人賞にあたる「アサヒビール奨励賞」を見事受賞しました。

キラキラっとアートコンクールの常連だった頃からの戸苅さんを知る者として、今回の受賞はたいへん感慨深いものがあります。少しづつ成長を遂げていった戸苅さんをリアルタイムで見てきたからです。

昨年、戸苅さんは、地元の豊橋市にある「こども未来館」で作品展を開催しました。多くのメディアに紹介され、大好評を博したこの作品展の最中、インタビューに応えた戸苅さんのお母様の談話が新聞に紹介されていました。その中で、お母様はこんなふうにおっしゃっていました。

「障害者の絵を企業などに有料で貸し出し、障害者の収入にあてる『アートビリティ』という団体があることを最近になって知りました。それに作品が登録されるくらいのプロになれたら…。それが夢であり目標です」

キラキラっとアートコンクールから飛び出し、アートビリティの作家となった子どもたちはすでに戸苅さんで11人となります。次世代の才能を発掘し、応援したいという思いで協力を始めたこのコンクールですが、着実に成果が表れていることをうれしく思います。

今年のアートビリティ大賞を受賞した岡村陸矢さんもキラキラ出身です。

これからも岡村さんや戸苅さんに続くすばらしい才能を、アートビリティは応援し続けていきたいと思っています。

アートビリティ事務局 岡嶋 明美

■アートビリティ…1986年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。アートの分野において、障害者の才能は健常者とかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。現在は、登録作家約400名、登録作品数約3,800点、年間使用作品数は400点を超えます。2002年4月、アートビリティと改称。

### ご協力の お願い

社会福祉法人東京コロニーでは、障害のある方への支援を就労や教育、生活の面から数多くの事業を行なっています。めざすことは、それらによる障害者の大きな意味での自立支援です。

私共の事業を応援して下さる方（あるいは団体）からのご協力を、下記を窓口に常時受け付けております。ご寄附の場合は、主に新しい事業の立ち上げや先進的な取組みを行うための財源に充当させていただきます。より多くの方へのより質の高いサービスをめざす当法人の事業に対し、今後ともご理解とご協力をお願ひいたします。

（社会福祉法人への寄附は、税金が一部免除になります。ご寄附をいただいた際はそのための領収書を発行させていただきます。）

ご寄附受付 社会福祉法人東京コロニー 法人本部事務局  
〒165-0023 東京都中野区江原町2-6-7 tel03-3952-6166 fax03-3952-6664



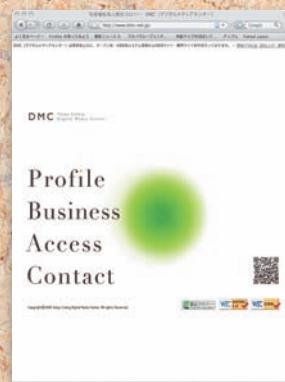


東京コロニー メインページ  
<http://www.tocolo.or.jp/>

# 東京コロニーの ホームページ



コロニー印刷  
<http://www.colony.gr.jp/>



デジタル メディアセンター  
<http://www.dmc-net.jp/>



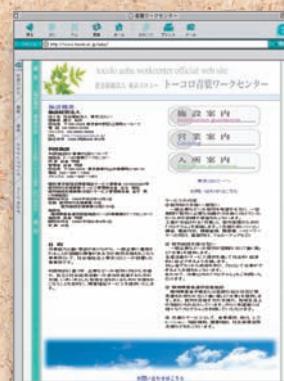
アートビリティ  
<http://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場  
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トコロ情報処理センター職能開発室  
<http://www.tocolo.or.jp/syokonou/>



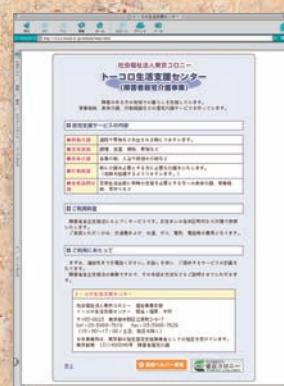
トコロ青葉ワークセンター  
<http://www.tocolo.or.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場  
<http://www.fireman21.net/>



トコロ情報処理センター事業部  
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トコロ生活支援センター  
<http://www.tocolo.or.jp/seikatu/index.html>



グループホーム / ケアホーム  
<http://www.tocolo.or.jp/grouphome/index.html>